

「セントラルパークモール」のこれまでの主な取組とその成果について

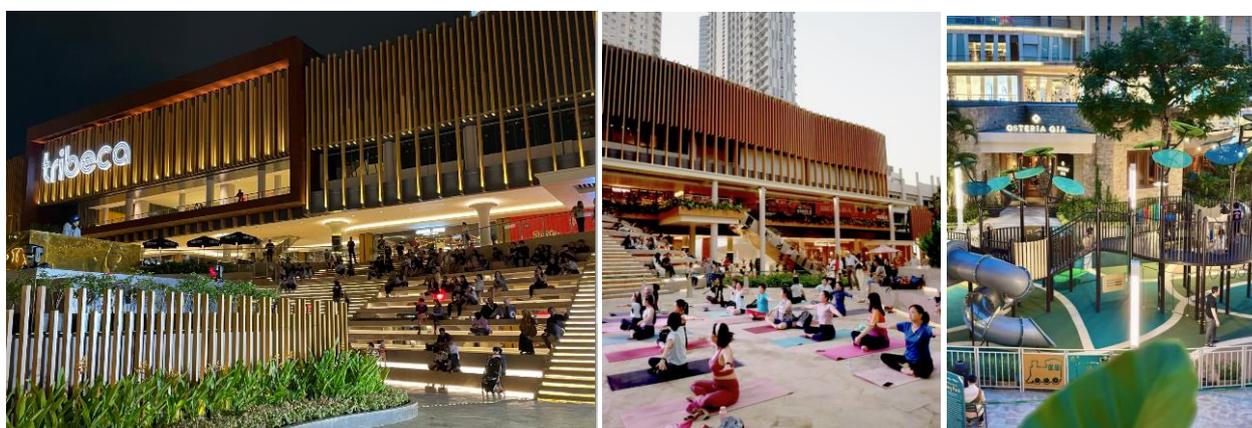
阪急阪神不動産は、2022年9月にセントラルパークモールを、2023年9月にネオソーホーモールを取得以降、両施設を一体的に運営し、施設価値の更なる向上に向けた様々な取組を推進してきました。

これは、当社グループが、グランフロント大阪ショップ&レストランや阪急西宮ガーデンズなど国内における主要な商業施設の運営で培ってきた豊富なノウハウを、インドネシアの運営会社と密接に連携し、現地のニーズや文化を踏まえて展開することで実現してきたものであり、以下に、その具体的な取組とその成果についてご紹介します。

■セントラルパークモール「トリベカパーク・トリベカダイニング」の大規模なバリューアップを実施

セントラルパークの象徴であり、ジャカルタでも類をみない約1haの広大な中庭「トリベカパーク」に面しているながら、その視認性や回遊性に課題を抱えていたダイニングエリア（以下、「トリベカダイニング」）について、大規模なバリューアップを実施しました。

バリューアップにあたっては、トリベカダイニングにつながる大階段の新設などハード面での改装に加え、テナントミックスを刷新することで、本年9月のグランドオープン時には、合計15テナントが本格稼働しました。また、新設した大階段は、早くもフォトスポットとして多くの人で賑わいを見せており、新たな交流の場としてお客様に心地よい空間を提供しています。さらに、トリベカパーク内にお子さま向け遊具も新設したことで、ファミリー層にも、これまで以上に楽しんでいただける環境が整い、施設全体の魅力を高めています。



昼夜を問わず賑わうトリベカパークの様子(左・中央)、新設した遊具(右)



トリベカパーク・トリベカダイニング 位置図

■戦略的なテナント誘致と日系企業との連携強化・プロモーション

日本国内における当社の強固なリレーションを活かした NITORI のインドネシア第 1 号店の誘致（2024年7月オープン）は、現地の多くのお客様に支持され、施設の魅力向上に貢献しています。その他、日本発祥の飲食店やエンタテインメント施設など、様々な業種の日系テナントとの対話を継続させながら、日系企業と連携したプロモーション活動も強化しており、海外でも高い人気を誇る「ポケモン」との大規模クリスマスイベント（2024年12月）や、東宝の映画怪獣「ゴジラ」との連携イベント（本年6月）は大きな話題となりました。



NITORI インドネシア第 1 号店(左)、「ポケモン」とのクリスマスイベント(中央)、「ゴジラ」との連携イベント(右)

■阪急阪神ホールディングスグループとのシナジーを発揮

阪急阪神ホールディングスグループと株式会社阪急阪神百貨店のインドネシアにおける協業機会の発掘を目的に営業の強化を図っております。具体的には、大阪・梅田エリアに保有する商業施設へのインバウンドの誘致を目的に、セントラルパークモールで開催された「HSBC/ANA トラベルフェア（★1）」に合同ブースの出展を行いました。



セントラルパークモールで実施したトラベルフェアの様子

（★1）HSBC 銀行と全日空（ANA）の共催による旅行関連のプロモーションイベントで、日本行きの航空券の販売等を行う。

■社会貢献とサステナビリティへの取組（SOLAR CHAPTER との連携）

両施設の運営を通じたサステナビリティへの取組として、NPO 法人 SOLAR CHAPTER が推進する水ストレス（水需給がひっ迫している状態）が深刻な地域への支援プロジェクトに参加しています。

この活動は、2023年より、気候変動の影響を受けやすく、経済的にも困難な地域であるインドネシアの東ヌサ・トゥンガラ州で、太陽光発電を用いた水供給システムを整備し、住民生活の質の向上を目指す取組であり、セントラルパークモールやネオソーホーモール（★2）内で開催される様々なイベントを通じて、お客様や関係者に募金への協力をお願いし、2024年は、約2億8,000万ルピア（日本円で260万円相当/当時）を寄付し、同州トゥナビシに新たな水供給システム設備が設置されました。また、本年より、第2弾として同州オエネヌの支援がスタートしており、今後もこうした活動を通じて、社会貢献とサステナビリティへの取組を続けてまいります。

（★2）本年11月22日より施設の名称を「セントラルパークモール2」に変更します。



館内各所に2次元バーコードを設置し寄付を募った

トゥナビシの子どもたち



オエネヌ、トゥナビシ 位置図

以上